

オリパラ活動を通じた地域の子供たちとのふれあい

協豊会関西地区では、協豊会方針でもある「地域社会の発展」に向けた活動の実施に向け、CSR分科会活動の一環として、6月に地域での子供たちとのふれあい会に参加しました。

いずれも、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会、日本青年会議所、また大阪法務局主催の人権教室等とのコラボレーションで、非常に有意義な活動となりました。

今後も地域行事への参加を計画し、地域社会への貢献の一助となる活動を推進いたします。

1. 6月20日（火）大阪府岸和田市立春木小学校でのボッチャ体験会

「ボッチャ」とは、イタリア語で「木のボール」を意味しています。赤又は青の皮製ボールを投げ、白い的球（まどたま）にどれだけ近づけられるかを競う競技で、パラリンピックの正式種目となっています。

当日は、小学5・6年生を対象に『チームプレーでの協力』をテーマとし、チームに作戦を考えてもらうことを主眼に、CSR分科会メンバー2名は審判員として参加しました。

子供たちは、最初はとまどいもあったものの、時間が経つにつれ、楽しみながらこの競技を理解していった様子でした。

競技の説明に聞き入る子供たち



さあ、始めよう！



当日は、大阪法務局さんによる人権のお話もありました。



集合写真



2. 6月29日（木）大阪府枚方市立小倉小学校でのブラインドサッカー・アイマスク体験会

6月29日に関西地区CSR分科会メンバー3名が、枚方市にある小倉小学校で開催されたブラインドサッカー・アイマスク体験会にスタッフとして参加しました。

当日は、3年生の子供たち90名が体育館に集まり、ブラインドサッカー体験30名、アイマスク体験60名に分かれて、約1時間体験会を行いました。

みな興味津々で体験していましたが、実際に体験した子供たちに聞くと、「目が見えないって本当に大変」「ブラインドサッカーの選手はすごい」「道に歩いている目の不自由な人を見かけたら何かお手伝いしようかと声をかけたい」等、短い時間でしたが、子供たちにとって有意義な時間を過ごせたのではないかと感じました。

ゴールへのキック方法について説明を聞く子供たち



アイマスク役の段差歩行を補佐する先導役



幅の狭い道を想定した机の間を歩く先導役とアイマスク役の子供たち



集合写真

